

## 組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 医学部保健学科

組織目標		達成状況(成果)				
教育	1. ITを活用した教育環境の整備 ・携帯電話からもアクセスできるHP電子掲示板の活用拡大。 ・自主学習用e-learning教材の作製(生理学等) 2. 21世紀の医療に対応できる質の高いコメディカルの育成 「チーム医療教育」をさらに発展させ、保健学科、医学科、薬学部合同の「症例検討会」を導入する。 3. 信頼される医療人育成へ向けての教育体制の改革 ・3専攻共通の救急・接遇・介護実習 4. 優秀な学生の確保へ向けての広報活動の強化 ・英文ホームページの作成 5. 国際的視野を持ったコメディカルの育成 ・タイ・マハサラカム看護大学との学部間協定締結 6. 高水準の国家試験合格者の維持	1. ITを活用した教育環境の整備 ・携帯電話からもアクセスできるHP電子掲示板を10名以上の教員が活用するようになった。 ・医用工学、国家試験等の自主学習用e-learning教材を作製した。 2. 21世紀の医療に対応できる質の高いコメディカルの育成 4年次の「チーム医療論」で、保健学科、医学科、薬学部の学生合同の「症例検討会」を行った。また、これにPBL方式授業を導入した。 3. 信頼される医療人育成へ向けての教育体制の改革 ・1年次の「チーム医を行った」。 4. 優秀な学生の確保へ向けての広報活動の強化 ・ホームページの一部を英文でもつくとともに、オープンキャンパス、学外オープンスクール用のDVD改定を行った。 5. 国際的視野を持ったコメディカルの育成 ・タイ・マハサラカム看護大学との学部間協定を締結し、教員3名と学生8名が同大学を1週間訪問して交流を行った。				
	達成度:	④	3	2	1	
研究	保健学研究科の研究に同じ。	達成度: 4 ③ 2 1				
	1)がん予防・がん看護・がん治療、妊娠、不妊・不育、性同一性障害等看護師、保健師、助産師、放射線治療技師、医学物理士、臨床検査技師、細胞検査士を対象にした生涯学習支援。一部にe-learning教材を導入・活用。 2)がん看護・治療、妊娠、不妊・不育、性同一性障害、性感染症、子育て等高校生、教員や一般市民を対象にした公開講座、講演、啓発キャンペーン。 3)各関連学会、研究会、法人組織の理事、評議員、幹事、委員、及び世話人としての会の開催や運営を支援。 4)診療活動、他のコメディカル教育機関での講義。	1.助産師を対象にした「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを全国から選抜した22名を対象に実施し、学長から修了証書を授与された。実施にあたっては学外からアクセスできるe-learningシステムを活用した。 2.深井喜代子教授(看護学分野)が天皇・皇后両陛下のお招きを受け、平成21年12月17日聖路加看護大学・菱沼典子教授、東京大学・真田弘美教授とともに、皇居で看護学研究について懇談した。また、同教授は文部科学省の「看護職キャリアシステム構築プラン」申請に当って「EBM志向の次世代看護職教育システム」を提案し、中心となって計画を作成して、採択の原動力となった。 3. 第5回チームオンコロジーセミナーで司会、岡山県てんかん協会講演会での講演、医学物理インテンシブ研修コースの講師等全教員が幅広い社会貢献を行った。 4.診療活動も従来どおり行うとともに新見公立短期大学等で教員が講義を行った。				
社会貢献		達成度:	④	3	2	1
客観的指標	事項	前年	今年の目標	達成状況		
	学部入試倍率	前期2.4倍 後期8.1倍	前期2倍、後期6倍	前期2.2倍 後期6.6倍		
	大学院充足率					
	科研費申請率					
	科研費採択率					
	共同研究件数					
	受託研究件数					
	留年・休学・退学者数	留年35・休学12・退学3	(今年の状況) 減少させるよう努力する	留年22・休学20・退学4		
就職率	96.20%	100%を目指す	98.70%			
<b>【自己評価総括記述欄】</b> ※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 教育環境の整備、チーム医療教育の推進については、予定以上に事業が進んだ。今後は、HP電子掲示板の活用拡大、e-learning教材の作製推進を図り、これらを学士力向上に結び付けることが課題である。1年次の「看護介護演習」で接遇・介護の方法を習得できるようになった反面、早期体験学習による問題意識の醸成と学習意欲の鼓舞という本来の目的が薄らいでいるので、病院、福祉施設等での実習もきちんとやる必要がある。「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムをはじめ社会人教育のこれまで以上に充実してきた。また、天皇・皇后両陛下のお招きを受け、看護学研究について懇談するなど画期的な出来事もあったが、優秀なコメディカルを送り出すことが最大の社会貢献であることをあたためて認識し、学士力向上に力を入れなければならない。						

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)